

オンラインで専門人材と被災地をつなぐ

LINE ヤフー株式会社 LINE ヤフー プロボノプロジェクト 社員ボランティアの皆様

【パートナー団体:一般社団法人ななお・なかのと就労支援センター 他】

■活動の目的:

LINE ヤフーのプロボノ・プロジェクトは 2023 年 10 月開始しました。社会課題に取り組む非営利団体と、業務外で貢献したい社員をつないでいます。2024 年 1 月の能登半島地震を受け、被災した地域や団体の課題解決を支援するために能登支援に注力し、2024 年 4 月より、能登官民連携復興センターと共に『プロボ能登』を展開しています。専門人材のスキルをオンライン中心に届け、持続的な復興と地域内外の協働、未来共創を目指します。

■活動を始めたきっかけ(活動開始:2024 年 4 月):

『プロボ能登』は、能登半島地震で多くの地域団体が被災し、人手や専門的支援が不足している現状を目の当たりにしたことがきっかけです。現地に行けなくても、自分たちのスキルや経験で支援できる方法を模索し、オンラインで専門人材と被災地をつなぐ『プロボ能登』の活動を始めました。

■活動内容(ボランティア実数:36 名):

LINE ヤフーのプロボノ・プロジェクトは 2023 年 10 月開始しましたが、2024 年 1 月の能登半島地震を受け、被災した地域や団体の課題解決を支援するために能登支援に注力し『プロボ能登』を展開しています。非営利団体と加盟企業の社員をマッチングし、約 3 カ月のプロジェクト単位で活動を推進。2025 年 11 月時点で 13 件、36 名の参加実績があります。

活動はシステム開発、情報発信、サイト制作、商品企画など多岐にわたり、現場の課題に即した支援が進んでいます。

①主体性・アイデア

社員が仕事で培った経験を持ち寄り、企画・開発・運営まで担う枠組みにより、自らの発想を起点にプロジェクトを前進させています。

多くの支援団体の中でも、一般社団法人能登乃國百年之計では『シロシル能登』のサイト制作に、技術 4 名、企画 1 名、デザイナー 3 名で現地リサーチを実施し、数か月で完成させました。また、一般社団法人ななお・なかのと就労支援センターでは、竹林事業で出た竹炭を商品





化し、販売することをプロボノ参加者と週1回のオンライン MTG を実施し、3 か月で達成できました。その他、11 団体のプロボノ支援をしました。

②コミュニティ/NPO ニーズへの対応

被災地や地域団体の具体的な要請に基づくマッチングを仕組み化。能登半島復興支援では、一般社団法人能登官民連携復興センターと連携し、現地の人材・ノウハウ不足を補うプロボノプラットフォーム『プロボ能登』を立ち上げ、賛同していただいた NEC、サイボウズ、グランドタック、いえしまコンシェルジュ、JINEN、リベロ、デンソーの 7 社が加盟し、NPO の多様なニーズに応えられるようにしています。

③企業で働く人が参加しやすい工夫

基本的には「業務外の時間」「約 3 か月」の明確な期間設計に加え、オンライン中心の活動形態を採用し、参加までの手順も事務局がガイドするため、初参加の方でもプロボノ参加しやすいようにしています。

以上の通り、①社員の主体性を引き出し、②地域・NPO の実需に応え、③誰もが無理なく参加できる設計で、企業ボランティアの実効性を高めています。

■活動の成果:

NPO 等(任意団体含む)13 団体を支援。プロボノ 36 名を派遣。
【内訳】YOUTH PACE3 名、ほくりく未来基金 1 名、ボランティアインフォ 2 名、パイオニズム 7 名、里山里海未来財団 1 名、制服バンク石川 2 名、能登乃國百年之計 8 名、白米千枚田愛耕会 1 名、能登地震地域復興サポート 1 名、ひなたぼっこ 2 名、七浦地区再生会議 2 名、ななお・なかのと就労支援センター 2 名、のと復耕ラボ 4 名。

第 11 回企業ボランティア・アワード『大賞』